

# サロベツ原野だより Vol.12 -No.4

ホームページ URL <http://www.sarobetsu.or.jp>

E-mail: [info@sarobetsu.or.jp](mailto:info@sarobetsu.or.jp)

〒098-4122  
北海道天塩郡豊富町  
字豊富東2条5丁目  
TEL (0162)82-3950  
FAX (0162)73-0360



＜雪に覆われた湿原 写真左: 冬晴れの利尻山(12月)、右上: スノーシューで歩く、右下: 霧氷とウサギの足跡＞

## 目次

- 1. お知らせ.....P.1
- 2. 活動報告&感想
  - (1) おもてなしスキルアップセミナー.....P.2
  - (2) 風車立て直し計画3件 ..... P.2
  - (3) どんぐり緑の森づくり..... P.3
  - (4) エコモ-交流会.....P.4
  - (5) その他の主な活動.....P.4
- 3. コラム
  - (1) 私とサロベツ(リレーコラム) .....P.5
  - (2) おすすめ本紹介.....P.6
  - (3) サロベツ今昔物語.....P.6
  - (4) とよとみの民話.....P.7
- 4. 事務局からのお知らせ
  - (1) 湿原センター情報.....P.7
  - (2) サロベツ四季の旅.....P.8

※転勤などでお引越しをされた方は、住所変更のご連絡を事務局まで  
よろしくお願いします!(連絡先は表紙の上部に表示しています)

## 1. お知らせ

### サロベツ湿原 スノーシューツアー

豊富町観光協会主催「おもてなしスキルアップセミナー」の一環で、当法人のガイドが冬の湿原をご案内いたします。



日時: **2月17日(日) 9時半~12時**

(豊富温泉⇄湿原センター間のバス移動時間を含む)

集合: ①豊富温泉「湯の杜ぼっけ」9:30

②豊富町定住支援センター「ふらっと☆きた」9:40

定員: 20名(高校生以上) 参加費: 無料

申込期限: 2月14日(木) 17:00まで

※詳細は近くなりましたら、ホームページなどでご案内させていただきます。

## 2. 活動報告&感想

### (1) おもてなしスキルアップセミナー

嶋崎 暁啓（豊富町・NPO職員）

10月25（木）、豊富町観光協会さん主催の「豊富町観光おもてなしスキルアップセミナー」が開催されました。「食体験」がテーマの今回も、当法人がガイドを担当しました。当日は地元の方をはじめ、近隣市町村からも29名の参加がありました。

最初に行ったのは「豊富牛乳公社」のヨーグルト工場。施設見学で美味しいヨーグルトができる秘密や現場の方の努力が良く分かりました。続いて「サロベツ湿原センター」で秋の湿原を散策し、「サロベツファーム」でソーセージづくりとジンギスカンのランチ。「美味しい」の声が続出していました！



簡単そうに見えて結構難しいソーセージ作り体験

午後もまだまだ続きます。「兜沼公園キャンプ場」と「宮の台展望台」の見学に加え、デザートは「工房レティエ」でのジェラートづくり。お腹いっぱい盛りだくさんな内容でした。



今回のツアーでは、生産者さんの思いに触れ、豊富町が誇る資源を再認識できました。冬は2/10（日）にサロベツ湿原センターでのスノーシューツアーを実施予定ですので、ぜひご参加下さい。

### (2) 風車立て直し計画3件

長谷部 真（豊富町・NPO職員）

現在、宗谷地方にある建設から10数年経った3か所の大型風車群（宗谷岬、サラキトマナイ、音類）では立て直しのための環境影響評価の配慮書や方法書が事業者（ユーラスエナジー、電源開発、幌延風力発電）から提出されました。



春秋にワシの渡りが見られる宗谷岬の周氷河地形と風車

立て直した場合、風車の数は減りますが、大型化される予定なので、より遠くから見えるようになります。これらの風車は環境影響評価が義務化される前に建設されたものです。宗谷岬は最北の地の宗谷岬の周氷河地形の景観やオジロワシ・オシの渡り（バードストライクが懸念）があります。



海岸砂丘上に建てられた音類風車（幌延町海岸線）

サラキトマナイは大沼方面とサロベツを行き来するガン・ハクチョウ類の渡りがあります。幌延町の海岸沿いにある音類は、重要な地形の海岸砂丘、春秋のオジロワシ・オオワシの渡り、春秋のガン・ハクチョウ類の渡りやサロベツの景観がそれぞれ重要ですので、影響をしっかりと評価し宗谷地方にある自然資源を保全していく必要があります。



ガン類が春の渡り時に近くを通過するサラキトマナイの風車

### (3) とんグリーンの森づくり活動報告

吉原 努（幌延町・NPO職員）

「とんグリーンの森づくり」は今年度で12年目を迎えました。当活動は豊富町稚咲内地区の国立公園特別保護地区において、かつては森だった場所が海からの強風や牛の横断などで裸地化してしまっただけ、原産地ミズナラを植樹及び育成管理を行い、海岸砂丘林を再生させる官民協働による取り組みです。

活動の結果としては、植栽地の苗木の本数は全体で3,747本、苗畑地で2,081本、計5,828本となり



植栽地の除草作業風景

ました。冬にネズミによる食害被害があったものの、順調に生育している苗木が多くみられ、一部の区画については人が通るのが大変な程、木が立派に育ち、再生が着々と進んでいることが伺えます。日々の活動は定期的な下草刈り作業、その他生育状況の調査などを地域の方々にご協力いただきながら実施することができました。



豊富中学校との総合学習（7月）

また、教育機関との連携ということで、豊富中学校の総合学習や法政大学のスタディツアーの場としても活用され、苗木が育っている再生地を見学や草刈り作業、苗木のカウント調査なども一緒に実施することができました。

毎年の恒例行事となっている「とんグリーンの森づくり」では、地域の方々や近隣市町村の方々をはじめ、稚咲内町内会、利尻礼文サロベツPVの会、豊富町役場、豊富高校、宗谷総合振興局、稚内開発建設部、環境省、といった各関係機関の

皆様、そして「さろママの会」、「なまら！！サロベツ∞クラブ」の子ども達など総勢60名の参加者となり、236本の苗木を植樹することができました。



法政大学のスタディツアー（9月）

次年度以降の全体的な方向性としては、苗木を植樹するための新たな候補地（裸地）が稚咲内地区で見ついているため、候補地を植栽区画として登録し、植栽を進めていく方向で検討している他、植栽地においてねずみによる食害被害が増えているため、被害を食い止めるための対策も検討しています。

今後も「とんグリーンの森づくり」として地域に愛される森を皆さんと一緒につくっていただければと思います。次年度もご協力・ご参加下さいますよう、よろしくお願い致します。



植樹イベント「とんグリーンの森づくり」にて（11月）

#### (4) 第8回エコモーター交流会 開催報告

川崎 正大 (豊富町・NPO職員)

12月1日、定住支援センターで「第8回サロベツ・エコモーター交流会」が開催され、42名の方々が会場に足を運んでくださいました。

サロベツ地域では、地域の自然や文化に楽しむ活動の環を広げて、湿原と農業が共生する地域づくりを進めるための取り組み「サロベツ・エコモータープロジェクト」というものがあります。そして、このプロジェクトに参加し、活動されている方々が年に一度集まり、今年の活動発表と交流を行う催しが「エコモーター交流会」です。



会場全景 (左) と発表するなまサロの子供たち (右)

今年は34登録のうち、当法人から「なまらサロベツ∞クラブ」と「ペンケ沼カヤック清掃」について、法昌寺日曜学校&遊び研究所とんこり堂さんから「室内バードウォッチング」について、豊富高校ボランティア部さんから「ボランティアを通して地域を知る～2018活動報告～」について代表して発表していただき、皆さん熱心に聞き入っていました。

また会場の後方では、活動紹介の写真やパネルも展示していただいたほか、羊毛フェルト作品や折り紙作品などの展示も行われ、見ているだけで楽しいひと時でした。



発表風景：とんこり堂福垣氏 (左)、豊富高校の皆さん (右)

発表終了後は、より親睦を深めるために懇親会を開催し、豊富高校の生徒の皆さんからミルクタルトなど手作りのお菓子の提供をしていただき

ました。全3種類ありましたが、どれもとても美味しく参加者の皆さんも舌鼓を打っていました。

さて、今年度のエコモーター活動も皆様のご協力のおかげで無事終わることができました。ご協力・ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました。これからもサロベツの自然や文化を楽しむ、元気にする様々な活動の環がつながり、広がっていくよう取り組んでいきます。今後とも変わらぬご支援の程、よろしくお願いいたします。



懇親会風景 (左) と提供いただいたお菓子 (右)

#### (5) その他の主な活動

- ★10月21日 バックヤードツアー最終回
- ★10月25-26日 豊富町民文化祭出展
- ★11月8日 浜頓別海鳥調査
- ★11月12日 豊富温泉活性化協議会
- ★11月17日 シマアオジ報告会
- ★11月26-27日 自然再生全国会議 (静岡)
- ★11月30日 弘前大インターシップ生受入
- ★12月3日 エゾシカカメラ見回り作業
- ★12月4日 郷土資料整理作業
- ★12月5日 タンチョウ全道一斉調査
- ★12月23日 クリスマス&おもちつき会



湿原センターの恒例イベント。自然素材のフォトフレーム作りとおもちつきをしました。63名参加。

- ★1月7日 稚内エゾシカ捕獲作業補助
- ★1月9-10日 宗谷バードウォッチングツアー対応

JTBさんからの委託で、海外からの旅行者向けの野鳥観察モニターツアーを実施しました。



### 3. コラム

#### (1) ~私とサロベツ~ (リレーコラム)

高橋 英紀

(札幌市・NPO 法人北海道水分気候研究所)

私がサロベツ湿原と出会ったのは今からおよそ58年前(1961年)の8月下旬でした。当時、北大農学部農業工学科の3年生でしたが、学生実習の一環として北海道開発局が実施している「サロベツ総合調査」の気象観測に参加することになり、湿原に関する予備知識が全くないままに観測隊に加わりました。



サロベツ総合調査の観測風景 (1961年8月)

当時、サロベツでは農家を悩ませていた春先の融雪出水によるサロベツ川の氾濫をおさえるために、サロベツ放水路掘削の計画が進んでいました。その計画を実施するに当たり、掘削前から後にかけてサロベツ湿原(当時はサロベツ原野と呼んでました)とその周辺の自然環境、社会・経済構造がどのように変わるかを10年にわたって追跡調査するという壮大な調査でした。

この「サロベツ総合調査」のように湿原を取り巻く自然・社会環境の変遷を10年にわたり追跡した調査は、欧米でも全く例がなく、時代を先取りした優れた調査として世界で紹介されるべきと思っています。

私が参加した気象観測隊は、当時の国立農業試験場の農業物理部が主体となって編成されたもので、当時としては最先端の接地気象観測法を取り入れており、専門分野に入りたての私には「まばゆいばかり」の内容でした。湿原にテントをは

って泊まり込み、日中は1時間間隔、夜間は3時間間隔で5日間連続の気温・湿度・地温の観測を実施しました。これが私とサロベツ湿原の出会いです。



インドネシアの若い研究者と地元や札幌からのボランティアの人たちとのササ地での共同地下水観測 (2012年8月)

その後、母校で教育・研究を続けることとなり、サロベツ湿原で幾人かの研究者を育てることができましたが、そこではサロベツ湿原にかかわる地元の人たちの温かい支援とたくさんの協力がありました。心から感謝しています。

1990年代の初めころからインドネシアのカリマンタン(ボルネオ島)で熱帯の泥炭湿地の研究にも取り組んでいます。また、1970年代から気候変動(温暖化)が地球規模の問題として取り上げられるようになりましたが、「生きている泥炭湿地」はその気候変動の元凶である二酸化炭素を吸収して地中に蓄える唯一の自然生態系と言えます。サロベツやカリマンタンの泥炭湿地が「生き続ける」ためにはどうすればよいか、これからは皆様と力を合わせ、調査し考えていきたいと思っています。



2017年10月、  
エコモーターでも  
講演していただき  
ました。(左写真)

## (2) おすすめ本紹介

立石 淑恵（青森県・弘前大学3年）



- 書名：『オーデュボンの祈り』
- 著者：伊坂幸太郎
- 発行：2003年11月
- 出版社：新潮社
- ISBN：978-4101250212

本書は推理作家である伊坂幸太郎のデビュー作にあたります。あらすじを簡単に紹介すると、コンビ強盗に失敗して逃走した主人公が150年ほど前から外界との交流を遮断している島に辿り着き、奇妙な島民や未来予知が出来るしゃべるカカシと出会い、その島で事件に巻き込まれるという話です。その事件とは、未来が見えるはずのカカシがバラバラにされて殺されて頭が持ち去られてしまう、という殺人（殺案山子？）事件です。なぜ、未来が見えるはずのカカシは自分が殺されることを防げなかったのか？

この事件を解く重要な鍵となるのがタイトルにもあるように、オーデュボンです。オーデュボンとはアメリカの画家であり、鳥類研究家で、写実的な博物画が有名です。オーデュボンの祈りとはいったい何なのか？誰がカカシを殺して頭を持ち去ったのか？そして、その祈りと事件との関係は？

それらの謎は、ぜひ本書を読んでご自身で確かめてみて下さい。

## (3) サロベツ今昔物語

### ～自分の中の昭和史(20)～

野口 多美冶（豊富町・郷土研究会）

受験後、兜沼の実家に帰り、事の顛末を報告する。持って行ったお金は再上京の旅費だけ使い残して使いきる。両親は何も言わなかったが今後の生活費・学費の事などを心配していたようだった。兄からの援助を事前に約束していたから不足分はアルバイトで補うこととして納得してもらった。

様々な不安を抱えながら再上京するが、まずは下宿確保の為に行動を起こさなければならない。ここで話は少々それてしまうが、第14話でも記述していたように、私は高校卒業後3年間助教諭として勇知中学校に勤務し、同じく稚内高校同級生だったM君も当校に勤務する。M君の話になって申し訳ないが、彼は静岡県出身で父親（営林署勤務）の転勤で上勇知に移住してきていた。彼は頗る頭脳明晰で私より一年早く退職し東大を目指して東京の予備校に入っていた。後で聞いた話だが1年で2か所も下宿を変えていたのだ。

話は元に戻るが、彼とは高校卒業後も何度か文通があり、私の上京の件も話していた。その後すぐに手紙があり、自分も今の下宿を出たいと思っているので、一緒に下宿を探して住まないか？という誘いであった。都会暮らしに経験のない私にとっては渡りに船と、即承諾して行動を共にすることにした。

上京後すぐ二人での下宿を探し、彼の下宿（予備校）は新宿にあり、また私の学校は吉祥寺なので二人の通学に適した場所を考え、中央線の中間の駅に的を絞った。高円寺を中心に周旋屋を捜し2件目の周旋屋の軒先で駅から徒歩15分位の場所にある、和風の一軒を確保できた。瓦屋根で二階建て一階には部屋がいくつかあり、二階部分は十畳ひと間二方障子仕切り、周囲の一方は廊下で片方はベランダ造り様の明るい部屋だった。（つづく）

## (4) とよみみの民話

第3集 音吉の杜

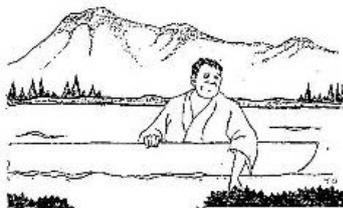
北海道豊富高等学校 郷土研究部

### 第1話 梅村さんと音吉さん (後編)

「ザック、ザック」「いったい、どのくらい歩いたのだろう。あと、どのくらいだろう。」

岐阜県に生まれ育ち、山歩きにも慣れているはずの梅村さんも、辛抱できなくなるくらい歩き続けました。「ああっ!!」

森が急にとぎれ、二人の目の前に、大きな美しい沼と、平坦な土地が現れ



ました。大きな沼は水が澄み、魚もたくさん泳いでいます。まわりの土地は、地平線の果てまで見渡せます。それはまさしく、梅村さんが探し求めていた土地でした。「この土地を全て水田にすることができれば、どんなにすばらしいだろう。」と梅村さんが、思い込んだのも無理はありません。「よし！岐阜にいる仲間をここに呼ぼう。みんなで協力して、スバラシイ樂園を築こう!!」梅村さんは、このすばらしい土地を自らの手で切り開き、夢を実現させることを誓いました。

(第1話 梅村さんと音吉さん 終わり)

## 4. 事務局からのお知らせ

### (1) 湿原センター情報

早野 佳織 (幌延町・NPO職員)

さらさらのパウダースノーが降り積もる森と湿原を歩いてみませんか？そこに道はありません。ふかふかの雪を進むと、冬ならではの面白い世界が待っています。



霧氷を付けたノリウツギ (左) ネスミの足跡 (右)

雪の上には動物達が縦横無尽に行き交った足跡。エゾユキウサギやキタキツネ、エゾクロテン達です。さらに進むと、キツツキが突っついて穴だらけの枯れ木を発見。ツルアジサイやオオイタドリは、種を付けたままドライフラワーに。



写真左：  
枝先から垂れるつらら。  
キラキラと光り、まるで、  
天然のシャンテリアのよう



スノーシューを履いてセンター周辺の森を歩く (2月)

厳しさや静寂の中に感じる生命の気配。雪のお布団をかぶって、生き物たちは遠い春の夢を見ているのでしょうか。林を抜けると、そこは見渡す限りの大雪原。一面の白銀の世界を独り占めです。さらに、森へ行く機会があればアカエゾマツやトドマツの美しい樹林帯の景観も楽しめます。



大雪原と冬晴れの利尻山 (2月)

サロベツは平地で高低差が無い為、スノーシューが初めての方でも安心してご参加できます。スノーシューの履き方、歩き方からレクチャーします。きっかけがなかった方、ご家族連れ、もちろんお一人様でもお気軽にどうぞ。カイドツアー、また用具のみレンタルも行っています。厳しくも美しいサロベツの冬を見にお越しください。

### (3) サロベツ四季の旅

野生動物は天気にとっても敏感だ。最近、ガイドや調査をされていてよくそう思う。清々しい朝に外に出てみると、あたり一面、そこらじゅうに動物たちの足跡があり、活発に活動している様子がわかる。ところが、天気が悪い日はもちろんだが、これから天気が悪くなるような時、まだ晴れていてもピタリと動物たちの気配が無くなる。いわゆる「嵐の前の静けさ」を感じる時だ。きっとみんな安全な森の中や木の根元に身を隠し、嵐が過ぎ去るのを待っているのだろう。



森の中でじっと身をひそめるエゾキウサギ

以前、発信器を付けたクマの活動量が日によって大きく異なるデータを見たことがあるが、こうした動物たちの動きを良く見ていると、その日の天候に関するバロメーターになる。「足跡天気予報」とでも名付けてみたら良いかもしれない。

私たち人間も良い天気の日には出かけたくなり、悪い天気の日には、なんとなく外出を控えてしまうが、つくづく同じ動物なのだと思う。ただ、生きること自体が仕事の動物たちは、悪天候でも仕方がなく出勤しなければならない私たちと違って敏感で正直だ。そして、先のことまで読める点で、彼らの感覚が優れているのは間違いない。さて、今日はどんな日になるのか、「気象予報士」の動物たちに聞いてみよう。

#### 当法人に新たに入会され方々をご紹介します

〈サポート会員〉

【大阪府】寺田侑加さん、【青森県】立石淑恵

〈1月20日現在の会員数〉

正会員 63 名 / 賛助会員 26 団体・9 個人  
サポート会員 122 名 ⇒ 計 220 名・団体

### NPO法人サロベツ・エコ・ネットワークとは？

当法人は、サロベツ及び周辺の自然と地域を愛する人々が集い、自然環境の保全活動、調査研究活動及び環境教育活動を通して、自然と人間との共存の大切さを広く啓蒙し、併せて地域の発展、まちの活性化に寄与し、サロベツ及び周辺の豊かで美しい自然を次世代に引き継ぐことを目的として平成16年5月に設立されました。

活動の目的にご理解いただき、共に汗を流し、ご協力下さる会員を随時募集しております。あなたの参加が活動を支えます。どうぞご加入ください。

会員になっていただける方は事務局までご一報下さい。申込方法と会費の振込先をご連絡いたします。また、会の運営を支えるご寄附も随時受け付けております。(3千円以上のご寄附は各種税控除の対象となります。詳しくは事務局まで。)



#### 私たちもNPO法人サロベツ・エコ・ネットワークを支援しています：賛助会員様一覧 (ご入会順)

(株)佐々木組様・(株)大建産業様・(有)木下商店様・(株)豊成建設様・(株)佐藤組様・三洋建設興業(株)様・(株)I・Cコーポレーション様・社会福祉法人サロベツ福祉会様・稚内信用金庫豊富支店様・細川商会様・(株)広瀬電工舎様・道北建設(株)様・北宗谷農協様・石川岳志様・足立商店様・(有)植村塗装様・斎藤愛子様・古市自転車商会様・豊富はなや様・小泉商店様・川原清己様・豊富自工(株)様・ホテル豊富様・伊藤組土建(株)様・竹寿司様・(株)国境様・(株)エゾリユー・ナイトイン帰燕様・鈴木康夫様・山田和孝様・小高野土香様・近藤あゆみ様・永井郁子様・天富木材(株)様・矢澤奈津美様

〈サロベツを愛する多くの仲間と活動中!!〉